

丹波に出雲といふ所あり。大社を移して、めでたく造れ

四段・体 ラ変・終

四段・已 形・ク活用・用

り。しだのなにがしと(か)や(や)しる所なれば、秋のころ、

完了「リ」終 係助 間助

四段・未 断定「なり」已

聖海上人、そのほかにも、人あまた誘ひて、

⑤しだのなにがし↓人 四段・未 意思「む」終

「いざたまへ、出雲拜みに。かいもちひ召させん。」と

四段・用

使役「す」未

て、具しもて行きたるに、おのおの拜みて、ゆゆしく信

サ変・用 四段・用 完了「たり」体 四段・用 形・シク活用・用

おこしたり。御前なる獅子・狛犬、背きて、後ろさまに

四段・用 存在「なり」体 四段・用

形動・ナリ・用

立ちたりければ、上人いみじく感じて、

四段・用 過去「けり」已 完了「たり」用

サ変・用 形・シク活用・用

「あなめでたや。この獅子の立ちやう、いとめづらし。

間助 形・ク活用・語幹 推量「む」終

形・シク活用・終

深き故あらん。」と涙ぐみて、「いかに殿ばら、殊勝の

ラ変・未

ことは御覧じとがめずや。むげなり。」と言へば、

下二・未 打消「ず」終 四段・已

形動・ナリ・終

おのおの怪しみて、「まことに他に異なりけり。都のつと

四段・用 過去「詠嘆」「けり」終

形動・ナリ・用

に晒らん。」など言ふに、上人なほゆかしがりて、

断定「なり」用

おとなしく物知りぬべき顔したる神官を呼びて、

四段・用 当然「べし」体 完了「たり」体 四段・用

形・シク活用・用 強意「ぬ」終

「この御社の獅子の立てられやう、さだめてならひある

補助動・ラ変・用 推量「む」終 四段・未然

ラ変・体

ことにはべらん。ちと承はらばや。」と言はれければ、

補助動・ラ変・用 推量「む」終 四段・未然

尊敬「る」用

「そのことに候ふ。さがなきわらはべどもものつかまつり

補助動・四段・終

四段・未 過去「けり」已

ける、奇怪に候ふことなり。」とて、さし寄りて、

補助動・四段・体 断定「なり」終

四段・用

据え直していにければ、上人の感涙いたづらになり

過去「けり」体

四段・用

完了「ぬ」用

にけり。

過去「けり」終

丹波の国に出雲といふところがある。出雲大社の神々をお迎えして立派に作つてある。

しだの誰それとかいう人が、領有している場所であるので、(その人が)秋の頃に、

聖海上人やその他にも人を多く誘つて、

「やあ、いらつしやいませ、出雲を参拜に。ぼたもちをごちそういたしましたしょう。」

と言つて、連れて行ったところ、それぞれが拝ん

で、たいへん信仰心を起こした。社の前にある

獅子や狛犬が背中合わせで、後ろ向きに

立っていたので、上人はたいへん感動して、

「ああ、素晴らしい。この獅子の立っている様が見たいへん珍しい。(これには)深い理由があるのだらう。」と涙ぐんで、「いかがですか皆さん、素晴らしいことはご覧になってお気づきにならないのか。それはあんまりです。」と言つと、

それぞれが不思議に思つて、「本当に他とは異なっているなあ。都への土産話に語らう。」

など言つと、上人はいっそう(その理由を)知りたがつて、

年配でものを(事情を)知つていっそうな顔をした神官を呼んで、

「このお社の獅子の立てなかり方は、決められたいわれがあることでしょう。少しお聞きたい。」とおつしやつたところ、

「そのことをごぞいます。いたずら好きの子供達がしましたことで、けしからぬことをごぞいます。」と言つて近づいて、

置きなおして去つたので、上人の感動の涙は無駄になつてしまつたのだつた。